



膠原病と自己免疫疾患

全身性エリテマトーデス

(全身のいたるところが炎症)

皮膚筋炎・多発性筋炎

(主に皮膚や筋肉が炎症)

関節リウマチ

(主に関節が炎症)

全身性強皮症

(主に皮膚が硬くなる)



結節性多発動脈炎

(主に血管が炎症)

主要な膠原病には5つあり、
それぞれ親戚のような関係にあります

その他の膠原病

シェーグレン症候群 混合性結合組織病

成人スティル病 高安病 たかやすびょう ベーチェット病

全身性自己免疫疾患

橋本病

バセドウ病

天疱瘡

類天疱瘡

I型糖尿病

自己免疫性肝炎

臓器特異的
自己免疫疾患

自己免疫疾患

膠原病の『膠原』は、からだの中の細胞と細胞の間を埋めている“膠原線維”のこと。膠原病とは、体中にあるこの膠原線維に炎症などの変化が起こることから付けられた名前です。

難しい名前
ばかりだピッ!



こ
う
げ
ん
び
よ
う
若い女性を襲う「全身性エリテマトーデス」
膠原病を早期発見せよ!

膠原病って?!
名前からして難しいですが、『膠原病』とは単一の病気の名前ではなく、免疫の異常な働きによるいくつもの病気の総称です。

私たちの体に備わっている免疫

「膠原病ってどんな病気?」と聞かれたら、「聞いたことはあるけれど、よく知らない」という人がほとんどではないでしょうか。
お年寄りの病気と勘違いしてる人も少なくないようですが、実は、膠原病患者の多くを若い女性が占めています。そして、重症化させず命を守るには、早期発見が非常に重要! 今回は、身近に潜んでいるかもしれない膠原病を早期発見するために、知っておいて欲しい基礎知識をお届けします。

監修

千葉県済生会習志野病院副院長
リウマチ膠原病センター
センター長 縄田 泰史 医師



膠原病の患者数比較

疾患名	日本の推定患者数	性差	好発年齢※
全身性エリテマトーデス(SLE)	52,000	女90%	20～30
慢性関節リウマチ(RA)	700,000	女75%	30～50
強皮症(SSc)	16,000	女60%	30～50
多発性筋炎(PM)・皮膚筋炎(DM)	14,000	女66%	10～50
結節性多発動脈炎(PN)	1,400	男60%	—
シェーグレン症候群(SjS)	30,000	女90%	40～60
混合性結合織病(MCTD)	7,000	女90%	20～30

※ある特定の病気にかかりやすい年齢



若い女性が多いっぴ

膠原病の診断の主な流れ

1、主な症状により疑わしいとされる

「関節痛、皮疹、発熱、手指のレイノー症状」などがある



2、基本的な検査を行う

一般的な血液検査(WBC、RBC、Hb、PLTなど)、尿検査(蛋白、糖、潜血など)、炎症マーカー(CRP、血沈)、酵素活性(GOT、GPT、LDHなど)などの検査



3、膠原病が疑われる場合のスクリーニング検査を行う

抗核抗体、リウマトイド因子、補体、免疫複合体、胸部X線検査など



4、疾患診断のためにさらに詳しい精密検査を行い、診断する

疾患固有の抗核抗体(抗DNA抗体など)や生検などで総合的に判断

膠原病の診断は、発症している様々な症状だけでなく、血液、尿、レントゲン検査などの結果を総合的に判断します。

わが国では膠原病とその関連疾患の多くは、厚生労働省によって特定疾患(いわゆる「難病」)に指定され、公費補助対象疾患とされています。



は、外から侵入してきた細菌やウイルスなどの異物を攻撃し排除してくれています。

ところが、本来なら体を守るはずの免疫が、自分の細胞やたんぱく質などを異物と間違え暴走し、自分自身の細胞や組織を攻撃し、炎症を起こしてしまうことがあります。これを「自己免疫疾患」といいます。膠原病は代表的な自己免疫疾患です。

発症の要因としては、遺伝、ホルモン、紫外線、細菌感染などが関わっていると考えられますが、一卵性双生児であっても二人のうちの一しか発症しないことも多く、まだまだ解明されていない点が多い病気です。

また、1対9の割合で、圧倒的に女性に多いことも特徴の一つです。

全身性エリテマトーデスについて

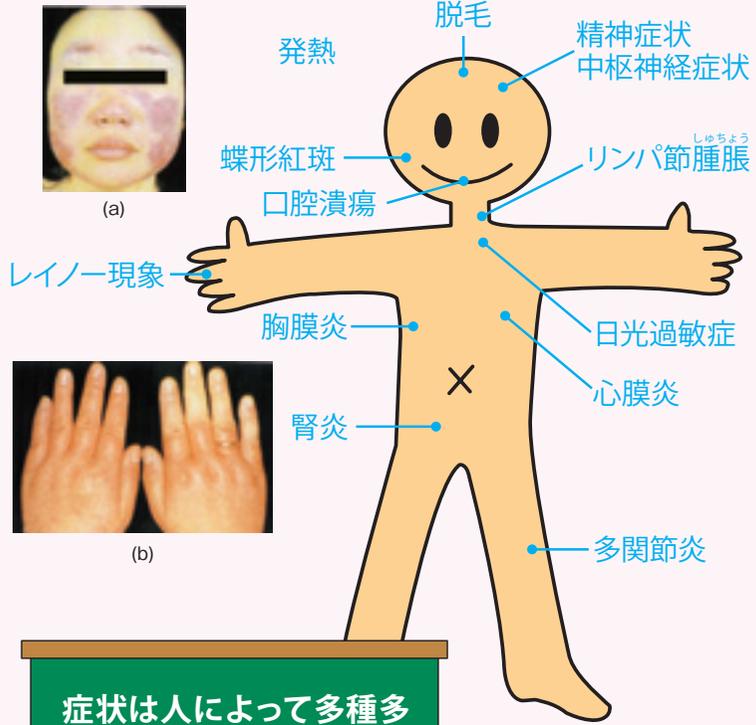
膠原病の中で、最も患者数が多い関節リウマチは、比較的知られている病気です。

その次に患者数が多く、典型的

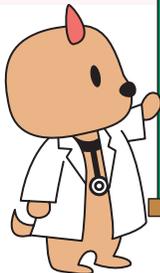
全身性エリテマトーデス (SLE) の身体症状

SLEは、全身的に慢性的な炎症を起こす病気で、多彩な全身症状がみられます。

- ◎ 顔面の蝶形紅斑 (鼻から頬に生じるチョウのような形の赤い皮疹)(a 参照)
- ◎ 手足・耳にみられる凍瘡様紅斑 (“しもやけ”のような赤い皮疹)
- ◎ 爪の周りの赤い発疹
- ◎ 円盤状紅斑 (顔面・耳たぶ・頭・関節の後ろ側などにみられる赤く丸い発疹)
- ◎ 頭髪の脱毛
- ◎ レイノー現象 (冷水や冷たい風に触れた時、指先が真っ白になって痛みやしびれを感じる) (b 参照)
- ◎ 口の中や鼻咽頭粘膜にできる痛みのない潰瘍など



症状は人によって多種多様で、一人の患者にこれらの症状が全て起こるわけではありません。



これは辛そう
だビッ。

な膠原病であるにもかかわらず、非常に認知度が低く、それだけに見逃されがちな膠原病が「全身性エリテマトーデス」(英語名を略して「SLE」と呼ばれます)です。

一つの臓器だけでなく、関節・皮膚・筋肉・肺・腎臓・血管・神経など全身のいたるところで、同時多発的に炎症が起こる病気で、10〜30代の若年女性に多く、ピークは20代。患者の90%以上が女性です。

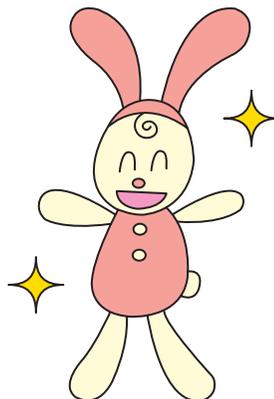
発熱、倦怠感、顔面の蝶形紅斑(頬にできるチョウが羽を広げた形の赤い発疹)、円盤状紅斑(顔面・耳たぶ・頭・関節の後ろ側などにみられる赤く丸い発疹)、関節痛などで始まることが多く、健康診断で蛋白尿が見つかり、全身性エリテマトーデスと診断されることもあります。

とにかく早期発見！

早期治療！

この病気が怖いのは、最初のうちは風邪のような症状しかないため発見が難しい点です。ましてや、健康に関心の薄い若い女性たちの場合、症状が長引いても気にせず、

全身性エリテマトーデス (SLE) のステロイド治療



全身性エリテマトーデスの治療は、全身の炎症を止める副腎皮質ステロイド薬や、免疫抑制薬が主体となります。中でも、最も一般的に用いられ、大変有効であるのが副腎皮質ステロイドです。

ただし、この薬は長期間多量に服用すると、免疫を抑制し過ぎてしまい、感染症などの副作用が発症しやすくなります。そのため、病気の重症度を正確に診断し、薬を適切に投与することが非常に重要です。

副腎皮質ステロイドホルモン

ステロイドの薬理作用

抗炎症作用

抗免疫作用

膠原病は…

◎体内での免疫異常

◎体内のあらゆるところでの炎症

ステロイドはまさに理にかなった治療

ステロイド剤の副作用

1. 大きな副作用

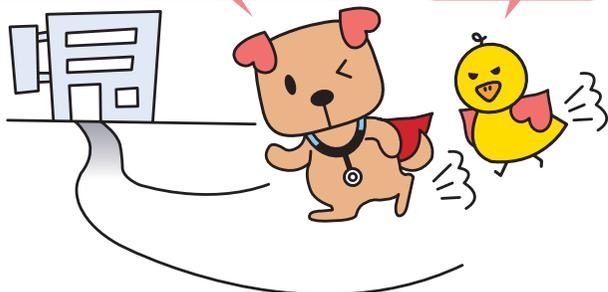
感染症
骨粗鬆症・骨壊死
精神症状
消化器症状
糖尿病・高脂血症
血栓症
白内障・緑内障

2. 小さな副作用

満月様顔貌 (Moon face)
食欲亢進
不眠
皮膚症状 (にきび、多毛、線条)
浮腫
高血圧
筋力低下

原因不明の熱が1週間以上続いたら迷わず受診！ 思いあたるがあれば、ぜひ医師に「膠原病の検査をしてください」と伝えてください。

38℃を超える熱が続いたら、迷わず受診だピッ！



放っておいているうちに全身のいたる所で炎症は悪化。重症化すると命に関わります。

しかし近年の医学の進歩により、膠原病の治療は劇的といつて良いほど改善されています。全身性エリテマトーデスも、早期に発見し、適切な診断と治療を行えば、症状を抑え、健康な人と変わらない生活を送ることも可能です。さらに、薬の量を減らしたり、服用しないで過ごせるまで回復できる人もいます。